

ヨシ

湿地に生育する代表的な植物の一種です。湖沼、ため池、河川、水路などの水辺、湿原、放棄湿田など、いろいろな湿地に広く生育しています。ヨシは世界中に広く分布しています。

高さが3mにもなる大型の植物で、広い範囲に群生(ぐんせい)して「ヨシ原」をつくります。円柱形の茎にやや白っぽい緑色の細長い葉をたくさんつけます。地中に竹のように太くて硬い地下茎(ちかけい)をのびし、春に小さなたけのこのような形の緑の新芽をだします。

夏から秋に、茎の先に大きな花序(かじょ)をつけます。花序は小さな花が集まったものです。ツルヨシとよく似ていますが、ほふく枝はつけないこと、流れの早い川には生育しないことなどの、ツルヨシとは違う特徴があります。

富士市での現状

流れの緩やかな河川や水路の水辺から岸にかけて、いたるところに生育しています。湿った放棄水田に繁茂(はんも)して、広いヨシ原になっているところもあります。富士川の河口にある池の岸でも見られます。海に近く海水の影響を受けるところにも生育し、生育範囲の広い植物です。浮島ヶ原自然公園では、ヨシが一面に生育し、秋に刈り取りが行われます。



ヨシの生えている様子

ヨシを確認したメッシュ

